
まさかの出来事

kamall

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まさかの出来事

【NZコード】

N5774D

【作者名】

k a m a l l

【あらすじ】

「ぐぐぐ普通な女子高生の優輝はある日を境に・・・になってしまい！？」とたばたラブコメディの予定です・・・

運命の日（前書き）

おかしな表現もあるかもしないですが、そこわ大目に見てやって下さい……評価、感想お待ちしております！－！

運命の日

1月1日 元旦 初詣

「う～寒いっ！」

あたしがこう呟くと隣に居る親友、夏輝も

「寒いね～」

と呟く。女のあたしが呟つのもなんだけど、夏輝は完璧だ。

スラ～っと伸びた長い手足。整った顔立ち。おまけに成績優秀。運動神経抜群とゆうオプションまで付いてくる。

隣で歩いてるだけでなんだか誇らしい気持ちになつてくれる。

とかいつてただ単に夏輝みたいにモテル人種になりたいのかかもしれない。

たまに夏輝の親友はあたしでいいのか？

なんて思つくらいだ。

打つて変わつてあたしはどこで居るような～ぐ～ぐ普通の女子高校生。顔だつて可愛い訳じゃないし、成績だつてよくない。・・・はあ、考えるだけで虚しくなつてきた。

よしーやめたー！ポジティブシンキングで行こうー！悩んだつてしかたなこよね。

でも今日は初詣しに来たわけだし、神様にお願いくらいはしてもいいよね・・・！

「どうか神様あたしをモテモテにして下さいーー！」
力強く願つた。

「夏輝い！何お願いした？」

あたしが聞くと、夏輝は少し頬を火照らせて答えた。

「あたしね、今好きな人が居るの。だから、その人に想いが届くようについて。」

テレながら喋る夏輝はとても可愛くて・・・つてええ！？好きな人居たんだあ！

「え！？だれだれっ？」

あたしが少し興奮気味に聞くとなんとも驚きの返事が返ってきた。

「えつとお・・・同じクラスの松田くん。」

えつ？今松田つて言つた！？ありえない・・・だつてあの夏輝が松田だなんて・・・ねえ？もう一回聞くことにした。

「『』めん・・・もう一回言つてくれない？」
すると夏輝は小さい声でまた同じ事を言つた。

あたしはショックだつた。なんせ松田は学年でもかなりのキモ面（

不細工でアタク）だつたから。

あたしは

「やめときなよ」と言ひおつしたが、その前に夏輝が口を開いた。

「分かつてゐる。あたじじや松田君」ふさわしくないつて事くら」。やつぱり無理な恋なのかなあ」いやいや、逆だよ逆。夏輝がふさわしくないんじやなくて、松田がふさわしくないの！

とか心の中では思いつつも言葉では

「そんなことないよ！応援してゐるから頑張つてね！」なんて言つていた。

あ～あ松田も随分偉くなつたもんだな・・そんな事を考へていると後ろから

「ほん」と背中を叩かれた。

夏輝かと思つて振り向くと、そこには一人の少年が立つてゐた。するとその少年が訳のわからないことを喋り始めた。

「お前は先ほど神に対して何を願つた？」

子供の癖にかなり偉そうだ。あたしはムツとしながらも素直に答えた。

「あたしをモテモテにして下さこつて頼んだの！」

するとその少年はにこりと笑つて

「その願い叶えてしんぜよ。」

と言つた。あたしはその少年が何者なのか気になり、訪ねてみた。

「君は何者なの？まさか神様とか言つんじやないでしょ？」「ちょっとふざけた口調で聞いてみた。するとその少年はこりと笑つて

「その通りだ。我が名はヘネシス。見た目は少年だが中身は113
45歳だ。」

その衝撃的な告白を聞いて、あたしは
「ふ」と噴出していた。

「はあ？ ありえないっての！」

あたしはこの面白い少年を夏輝に見てもいおつと顔をかけようとした。そのとき後ろから夏輝の声がした。

「もう優輝ーなにやつてたの？ 人が心配して探しに来たら一人で喋つてゐし・・ビハリやつたの？」

ん？ 一人？

「何言つてんの！ そこに男の子が・・・」
そうつて振り向くとあの少年は居なくなつていた。

「もうつ本当に大丈夫？ 熱もあるんじやないの？」

うわー！ なんでえー！ さつさまで居たのに・・・ もうひつくなつてんのー？

「嘘じやなーつてー！ さつさまでそこには男の子が・・・」

「ペタリ」

おでこに痛みが走つた。なにやら夏輝がでこポンをしてきたようだつた。

「もうーいい加減にしないとおるよー？」
「どうせアハハ立腹のーよつすだ。」

「あ～」めんめん…もつまわなこから許して?
ほんとに居たんだけどな。

「うん。分かればよろしく。」 しょうがないと言わんばかりの顔だ
つたがなんとかお許しをもらひ、家路につくのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5774d/>

まさかの出来事

2010年12月22日02時17分発行